

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 18 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26283003

研究課題名(和文) アラブ系移民/難民の越境移動をめぐる動態と意識：中東と欧州における比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of Dynamics and Attitudes of Arab Migrants-Refugees in Jordan and Sweden

研究代表者

錦田 愛子 (NISHIKIDA, Aiko)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：70451979

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではシリア、イラク、パレスチナ出身の移民および難民について、移動の動機や、移動先の選択、移動後の状況や意識の変化を、量的調査(世論調査)と質的調査(聞き取り調査)の双方により明らかにした。調査対象地域は、国家規模に対して相対的に多くの移民/難民を受け入れてきた、ヨルダンとスウェーデンである。調査の結果、ヨルダンは紛争から逃れるための安定した一次避難先として選ばれるが、就労許可等をめぐり不満もあることが分かった。スウェーデンは受け入れ後の国籍取得や言語教育など、滞在条件の良さが移民/難民の間で知られ、移動の誘因となっている。また大規模な移民街の存在が適応を容易にしていることが確認された。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the Arab migrants-refugees including Syrians, Iraqis and Palestinians and tried to clarify their perception as a subject of migration. Their direct motivation of move, choice of destinations, and satisfaction after their migration are investigated. Both quantitative and qualitative method were used for this research and they supplemented each other. The research was conducted in Jordan and Sweden which are both famous for receiving large number of migrants-refugees relatively to their population. The results indicated that Jordan is chosen as a safe and close place for evacuation for the Arabs with different background over decades. Among them, Syrians were not permitted to work and the regulation severed their economic situation. On the other hand, Sweden is chosen as a destination based on the good reputation for their migration policy. The free language education and availability of foreign food in migrants' district help their integration.

研究分野：中東地域研究

キーワード：移民 難民 アラブ 政治学 世論調査 ヨルダン スウェーデン 国際共同研究

1. 研究開始当初の背景

近代グローバル化以後の移民や難民をめぐるのは、その動向や特徴、受け入れ政策について多くの研究蓄積が輩出されてきた。しかし先行研究の大半は、移動する人々を主体として捉えず、その移動後の状況や、各国別の相違、個人レベルでの適応の問題については看過されがちであった。

本研究の対象地であるヨルダン、建国以来、パレスチナ、イラク、シリアなど周辺国の紛争の影響で、数十万～数百万人単位の難民を受け入れてきた。その受け入れ状況は、出身国別に研究がなされてきたが、越境移動時の状況や移動後の意識の変化など、共通要素についての比較の視点を欠いていた。また同様に、スウェーデンは、中東を含めた広い地域からの寛容な移民・難民の受け入れで知られるが、先行研究の大半は受け入れ政策に関するものが占め、移住後の移民や難民自身の意識や経験に関する研究は乏しかった。

研究代表者はこれまでの研究で、パレスチナ難民の移動経験や、現在の法的地位、政治的権利の諸相を明らかにしてきた。また移動に関する意識や、移動後のアイデンティティに対する影響について、長期の参与観察と聞き取り調査を続けてきた。さらに平成 23～25 年度科研究費若手研究 (A) では、レバノンおよびパレスチナ自治区で世論調査を独自に実施し、その結果分析から、移民や難民が将来的な移動の可能性を主体的かつ積極的に捉え、情報収集を行い移動する過程を捉えてきた。これらの研究を踏まえて、本研究では対象をシリア難民、イラク難民に広げ、アラブ系の複数地域出身者を横断的に研究対象に含めることで、移住者自身の動態や意識をより総括的に明らかにすることが可能と考えた。

研究対象地として選んだヨルダンとスウェーデンは、いずれも国家の規模に対して相対的に大きな比率で、移民や難民を受け入れてきたことで知られる。そこで、両国を比較することにより、アラブ系移民や難民にとって、言語・文化・習慣が同じヨルダンと、異なるスウェーデンの違いが、適応にどのような影響を与えるのかについて、明らかにすることを構想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、20 世紀半ば以降のアラブ系移民および難民の移動の動態を、欧州と中東諸国との間で比較検討し、その特徴を明らかにすることである。また移動主体となる人々が、移動に関連して抱く意識を、ナショナリズムや経済的な実益主義、宗教的アイデンティティなどいくつかの視座から分析することで、移動の動機や、移動によって生じた意識の変化について検討を加える。検討する移動の対象国としては、ヨルダンおよびスウェーデンをとりあげる。両国では世論調査の実施を現地機関に委託しオリジナル・デー

タを取得するほか、移動経験者に対して現地調査で聞き取り調査を行う。対照的な移動のインセンティブを与える両国が、実際に移動した人々の間でどのように評価されているのか、量的・質的双方の分析手法により明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、ヨルダンおよびスウェーデン在住のアラブ系移民と難民を対象に、移動に関する動態と意識のあり方について、世論調査と個別事例の聞き取り調査を組み合わせた複合的アプローチで検証した。

世論調査の実施に当たっては、各地域で調査実績のある研究機関に調査を委託した。平成 26 年度に実施したヨルダンでは、ヨルダン大学戦略研究所に、平成 28 年度に実施したスウェーデンでは民間調査会社 NOVUS に、サンプリングと質問票の配布・回収・データ入力を委託した。質問票の作成は、研究代表者のほか、計量分析が専門の濱中新吾氏、アラブ地域研究者の高岡豊氏、溝淵正季氏、スウェーデン研究者の清水謙氏ら研究分担者、研究協力者との協働で進め、アラビア語およびスウェーデン語で最終案をまとめた。委託機関から調査データが提出されると、それに基づき協働で分析を行ない、学会等での研究報告や論文執筆を、個別にまたは共同で進めて発表した。

聞き取り調査は、世論調査の質問項目の策定材料としてアラブ系移民/難民をめぐる概況を把握することに用いられたほか、量的データでは明らかにならない移動をめぐる個別具体的な情報、分析に必要な背景知識の補完として用いられた。平成 26 年度はヨルダンで、平成 27 年度はスウェーデンおよび経由地のフィンランドとデンマークで、平成 28 年度はスウェーデンおよび研究対象国を周辺地域との関係で位置づける必要のため、レバノン、フランス、ベルギー、デンマーク、ドイツでも調査を実施した。

4. 研究成果

ヨルダンでは、ヨルダン大学戦略研究所への委託で、平成 26 年 8 月に、パレスチナ難民およびシリア難民 1190 人を調査対象とする世論調査を実施した。またパレスチナ難民、シリア難民、イラク難民を対象に聞き取り調査を実施し、以下の内容が明らかにされた。

- (1) 同じ手法でサンプリングを行なった結果、ヨルダン国内在住の難民のうち、シリア難民の方がパレスチナ難民よりも平均して若く、前者では 40 代以上が少ない傾向がみられた。
- (2) 世帯所得および教育水準では、シリア難民よりもパレスチナ難民の方が高い。これはシリア難民には就労が認められていないため、そのことに対する不満がシリア難民の間では高いことが確認された。
- (3) ヨルダンは周辺国での紛争を逃れるため

の一次避難先として選択されている。その後の移動の可能性については、「移動は困難である」と認識する割合が、シリア難民よりもパレスチナ難民の間で高い。移動先としては、シリア、パレスチナへの帰還を求める希望が5～8割と高い(パレスチナの中でもエルサレム、ヨルダン川西岸地区、ガザ地区、1948年戦争占領地など、場所によって希望の数値に開きがある)。第三国定住先としてはヨーロッパ諸国の中で、イギリス、フランスよりもスウェーデン、ドイツへの移住希望の方が多い。

(4) ヨルダン在住のシリア難民の中には、国境を接するシリアの南部地域の出身者ばかりでなく、アレppoやダマスカスなど多様な地域の出身者が見られた。移動先としてヨルダンを選んだ理由には、シリア国内での運動履歴や信条等から、シリアと関係が密接なレバノンへ移動することを危険と考えたという、政治的理由にもとづく選択の例もみられた。

(5) イラク難民はヨルダンに、幾度かの異なる政治的転機(1991年湾岸戦争、2003年イラク戦争、2007～8年イラク内戦、2014年「イスラーム国」の台頭)の度に移入しており、特定の集住地区を形成していない。イラク人用難民キャンプは調査時点では既に存在せず、既にイラクに帰還した者や、新しく来た者など多様な層で構成されている。

(6) 聞き取り調査を行なった平成26年度の夏には、イラクでちょうど「イスラーム国」が建国を宣言し勢力を拡張していた時期と重なったことから、キリスト教徒を中心とするイラク難民が新たに流れ込み、首都アンマン市東部等に居住していた。

スウェーデンでは、民間調査会社NOVUSへの委託で、平成28年11月から平成29年2月にかけて、シリア難民、イラク難民、パレスチナ難民350人を調査対象とする世論調査を実施した。また移民/難民用の公立スウェーデン語学校であるSFIを中心に、パレスチナ難民、シリア難民、イラク難民への聞き取り調査を実施した。その結果、明らかにされた主な成果は以下の通りである。

(1) スウェーデンでは南部の都市マルムーに移民/難民が多く住み、大規模な移民街のローセンゴードを形成している。この地区には新設で大規模なモスク(イスラーム文化センター)があり、ハラール食品の販売店も多い。また中東以外からも、多くの国や地域出身の移民/難民の混住地域となっている。

(2) マルムーに移民/難民が集中する理由のひとつには、隣接するデンマークの首都コペンハーゲンまで鉄道で容易に移動可能な地理的利点が挙げられる。実際に、親族の一部がマルムーに、別の一部がコペンハーゲンに在住し、日常的に往来する例も見られた。

(3) スウェーデンに到着した移民/難民は、申請により公式に居住が認められると、公費でスウェーデン語の教育を受け、一時居住施

設への滞在や、滞在中の生活費の支給を受けられることができる。国籍取得や家族呼び寄せが比較的容易なことも、移民/難民にとっての誘因となっていた。

(4) 関連したヨルダンやレバノンでの調査では、移動主体である移民/難民が、こうした滞在条件の良さを認識した上で、移住先にスウェーデンを選択していることが、複数事例から確認された。

(5) スウェーデン国内では、首都ストックホルムにも多くの移民/難民が住み、北西部郊外のリンケビューやテーンスタに大規模な移民街が形成されている。これらの地域では、ストックホルム市内の他の地域との間で明確な棲み分けが見られ、移民/難民の出身地域の食材を扱う市場やスーパーマーケット、モスクが多い。

(6) スtockホルムにはパレスチナ難民の同郷組織が複数拠点をもち、スウェーデン議会政治への働きかけを含めたアドヴォカシー活動を行なっている。彼らはパレスチナで活動するNGO等とも連携し、密接な関係を保っている。

(7) スウェーデン国内の移民/難民は、移民街に住む限りでは出身地域の食材等を比較的容易に入手することができる。またインターネット等を通じて同じ国や地域との関係を維持できることから、言語・文化・習慣の異なる受入国へ移住することで、直接的には大きな問題が生じているわけではない。

(8) とはいえ受け入れ国でも一部の右派勢力による排斥運動が起きることはある。また移民として居住許可を認められるまでは、法的に不安定な地位に置かれて行動が制限される場合も生じる。

ヨルダンの周辺国としてはレバノンで調査を行なった。レバノンはヨルダンと同様に多くのシリア難民とパレスチナ難民を受け入れているが、その存在はより顕在化している。パレスチナ難民の間では、ヨルダンにおけるよりも第三国定住への希望が強く、実際に非合法ルートでの移住を試みる者も多いことが分かった。

スウェーデンの周辺国としては、スウェーデン在住の難民の親族が住むデンマークで調査を行なったほか、経由地のフィンランドで移民排斥デモを観察し、周囲の関係者に聞き取り調査を行なった。また連続テロ事件で国境管理が厳格化した後の移動状況と、移民/難民に対する受け入れ側の反応の変化を分析するため、パリ、ブリュッセル、ドイツのフランクフルトとハイデルベルクでも調査を行なった。

これらの調査で得られた成果については、以下の通り多数の論文執筆や図書の刊行、国内外の学会発表によって公開された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 22 件)

錦田愛子 「ヨーロッパの市民権を求めてアラブ系移民 / 難民の移動と受入政策の変容」『中東研究』査読なし、第 528 号、16-25 頁、2017 年。

錦田愛子 「中東地域からの移民 / 難民をめぐる動向と展望」『アジア研究ワールド・トレンド』査読なし、第 256 号、46-47 頁、2017 年。

錦田愛子 「北欧をめざすアラブ系「移民 / 難民」再難民化する人びとの意識と移動モデル」『広島平和研究』査読あり、第 4 号、13-34 頁、2017 年。

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiroshima-cu/list/creators/%E9%8C%A6%E7%94%B0%20%E6%84%9B%E5%AD%90%20:%E3%83%8B%E3%82%B7%E3%82%AD%E3%83%80%20%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%82%B3>

高岡豊 「現代シリアにおけるアルメニア人の政治活動」『アジア・アフリカにおける諸宗教の関心の歴史と現状』査読なし、号数なし、69-80 頁、2016 年。

浜中新吾・高岡豊・瀧淵正季 「紛争地帯での国内政治と国際政治の連関 - 自然実験によるレバノン市民の態度変容へのアプローチ - 」『レヴァイアサン』査読あり、58 号、110-131 頁、2016 年。

高岡豊 「「部族」という観点から見るシリア紛争」『中東研究』査読なし、526 号、44-53 頁、2016 年。

Takaoka, Yutaka. "Analysis of the Resource Mobilization Mechanism of the Islamic State" *Perception*, 査読あり, Vol. 11, No. 1, 2016, pp. 11-26.

清水謙 「スウェーデンの中の「イスラーム国」: セグリゲーションに潜むその広がり」『中東研究』査読なし、522 号、63-71 頁、2015 年。

Nisikida, Aiko. Shimizu Ken, Hamanaka Shingo, Takaoka Yutaka and Mizobuchi Masaki. "Multidisciplinary Research on Cross-Border Arab Migration: A Comparison between Sweden and Jordan," *Asia and Africa Across Disciplinary and National Lines. Proceedings of the Papers. Consortium for Asian and African Studies (CAAS) 5th International Conference. Columbia University*, 3-4 October 2014, 査読あり, Vol.5, Office for International Academic Strategy (OFIAS). Tokyo University of Foreign Studies, pp.65-70, 2015.

<http://www.tufs.ac.jp/ofias/caas/Aiko%20NISIKIDA.pdf>

瀧淵正季 「冷戦終結以降の中東における地域秩序の変遷: 『アメリカの覇権』の趨勢をめぐって」*NUCB Journal of Economics and Information Science*, 査読なし, Vol. 59, No. 1, 2015, pp. 217-245.

錦田愛子 「ハマースの政権掌握と外交政策」『国際政治』査読あり、第 177 号、98-112 頁、2014 年。

浜中新吾 「アラブ革命の陰で - パレスチナ人の国際秩序認識に反映された政治的課題」『国際政治』査読あり、178 号、28-43 頁、2014 年。

Hamanaka, Shingo. "Military Service as a Process of Political Socialization," *Public Opinion Research at Crossroads, Asian Network for Public Opinion Research (ANPOR) Conference*, 29 November - 1 December 2014, 査読あり, Niigata University, Niigata, Japan, pp.823-836, 2014.

清水謙 「スウェーデンの「2014 年外交方針宣言」と外交討論について 解説と考察」『北欧史研究』査読なし、31 号、63-72 頁、2014 年。

〔学会発表〕(計 24 件)

Nisikida, Aiko. "Migration in desperation: Palestinians' move to EU countries," *The 2016 International Metropolis Conference, "Creating Trust through Wisdom on Migration and Integration"* 26 October 2016, Nagoya Congress Center, Nagoya, Japan.

清水謙 「中東の紛争と難民 - どのようにしてスウェーデンにたどり着いたか - 」 北欧文化協会, 2016 年 10 月 14 日, 京橋プラザ区民館。

Takaoka, Yutaka. "Observations on the mechanism of mobilizing resources in the Islamic State" *symposium "Japan-Turkey Dialogue on World Affairs"*, Center for Middle Eastern Strategic Studies (ORSAM), 1 Mar 2016, Turkey.

高岡豊 「シリア紛争における非国家主体の台頭: シリア北東部の事例から」 日本国際政治学会 2016 年度研究大会, 2016 年 10 月 15 日, 幕張メッセ国際会議場。

Mizobuchi, Masaki. "Debating Terrorism and Counter-Terrorism: From

Japanese Perspective,” *The Edwin O. Reischauer Center for East Asia Studies Seminar Series*, The Paul H. Nitze School of Advanced International Studies, 27 January 2016, Johns Hopkins University, Washington DC, USA.

Nisikida, Aiko. “Stability of Jordanian Monarchy - Factors for King’s Authority,” *International workshop, “Basis of the Survival of Arab Monarchies*,” 19 November 2015, the Heinrich BöllStiftung, Rabat, Morocco.

錦田愛子「再難民化する難民たち 中東から北欧を目指すアラブ系住民の移動」日本政治学会 2015 年度研究大会, 2015 年 10 月 11 日, 千葉大学.

清水謙「スウェーデンにおける移民/難民のプル要因の分析 - 「積極的外交政策」に着目して - 」日本政治学会 2015 年度研究大会, 2015 年 10 月 11 日, 千葉大学.

Shimizu, Ken and Nisikida, Aiko. “Arab migrants-refugees from Swedish foreign policy’s perspective,” “*Researching the Middle East: Fieldwork, Archives, Issues, and Ethics*,” 8 June 2015, the University of Exeter, Exeter, UK.

高岡豊 「「アラブの春」とイスラーム過激派の利害得失」日本中東学会 2015 年次大会 2015 年 5 月 17 日, 同志社大学.

Takaoka, Yutaka. “Regime survival and the People’s Council in Syria” “*Syria: Moving Beyond the Stalemate*,” 1 January - 3 January 2015, Centre for Syrian Studies St Andrews University, St Andrews, UK

Takaoka, Yutaka. “Problems After the “Arab Spring:” “Extreme” militants and “Moderate” militants,” “*New Horizons in Islamic Area Studies - Asian Perspectives and Global Dynamics*,” National Institutes for the Humanities of Japan (NIHU) Program for Islamic Area Studies (IAS) - Fifth International Conference, 11 September 2015, Tokyo.

高岡豊・溝淵正季「なぜ彼らはジハードに向かうのか? 欧州在住アラブ系移民・難民と外国人戦闘員問題」日本政治学会 2015 年度年次大会, 2015 年 10 月 11 日, 千葉大学.

MIZOBUCHI, Masaki. “Unanswered War: Evaluating US Military Operation against the ‘Islamic State’,” *Syria: Moving Beyond the Stalemate*, 3rd bi-annual

Conference of the Centre for Syrian Studies, University of St Andrews (July 1-3, 2015, University of St Andrews, St Andrews, UK)

溝淵正季 「イスラーム国の台頭と国際社会の対応」 国際安全保障学会 2015 年度年次大会, 2015 年 12 月 6 日, 慶應義塾大学.

Nisikida, Aiko. Shimizu Ken, Hamanaka Shingo, Takaoka Yutaka and Mizobuchi Masaki. “Multidisciplinary Research on Cross-border Arab Migration: A Comparison between Sweden and Jordan,” *5th Annual Conference for the Consortium for African and Asian Studies -CAAS, “Asia and Africa across Disciplinary and National Lines*,” 4 October 2014, Columbia University, New York, US.

Hamanaka, Shingo. “Military Service as a Process of Political Socialization,” *Public Opinion Research at Crossroads, Asian Network for Public Opinion Research (ANPOR) Conference*, 29 November - 1 December 2014, Niigata, University, Niigata, Japan.

浜中新吾・高岡豊・溝淵正季「シリア避難民の流入がもたらすレバノン市民の態度変容」日本国際政治学会 2014 年研究大会, 2014 年 11 月 16 日, 福岡国際会議場.

Nisikida, Aiko. Shimizu Ken, Hamanaka Shingo, Takaoka Yutaka and Mizobuchi Masaki. “Multidisciplinary Research on Cross-Border Arab Migration: A Comparison between Sweden and Jordan” , *Fifth Annual Consortium for Asian and African Studies Symposium*, 4 October 2014, Columbia University, New York, US.

清水謙 「スウェーデンの移民政策と多文化社会の現状と問題点」 EUSI 津田公開記念講座「EU における移民政策・多文化主義」, 2014 年 7 月 21 日, 津田塾大学.

21. Takaoka, Yutaka. “Traditional political forces in current conflict in Syria,” “*The Protest Movements in Contemporary Middle East*” *The Academy of Sciences of Czech Republic*, 29 May 2014, Prague, Czech.

〔図書〕(計 23 件)

私市正年・浜中新吾・横田貴之(編著) 明石書店、『中東・イスラーム研究概説』、総頁数 392、2017 年.

錦田愛子、明石書店、「中東・北アフリカ

の移民／難民研究」私市正年・浜中新吾・横田貴之共編、『中東・イスラーム研究概説 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』、2017年、151-159頁。

高岡豊、朝日新聞出版、「シリア 紛争とイスラーム過激派の台頭」山内昌之編著、『中東とISの地政学』、2017年、79-97頁。

高岡豊、明石書店、「イスラーム急進派とテロリズムの研究」私市正年・浜中新吾・横田貴之編、『中東・イスラーム研究概説』、2017年、201-207頁。

高岡豊、明石書店、「シリア」私市正年・浜中新吾・横田貴之編、『中東・イスラーム研究概説』、2017年、269-273頁。

溝淵正季、朝日新聞出版、「米国：オバマ政権の『対テロ戦争』と『IS』」山内昌之編、『中東とISの地政学：イスラーム、アメリカ、ロシアから読む21世紀』、2017年、59-78頁。

溝淵正季、明石書店、「中東研究と国際政治の理論」私市正年・浜中新吾・横田貴之編、『中東・イスラーム研究概説：政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』、2017年、57-66頁。

溝淵正季、明石書店、「レバノン」私市正年・浜中新吾・横田貴之編、『中東・イスラーム研究概説：政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』、2017年、263-268頁。

錦田愛子（編著）有信堂高文社、『移民／難民のシティズンシップ』、2016、総頁数258頁。

錦田愛子、慶應義塾大学出版会、「外国人の市民権とは グローバル市民への視点」小泉康一・川村千鶴子編、『多文化「共創」社会入門 移民・難民とともに暮らし、互いに学ぶ社会へ』、2016年、92-100頁。

錦田愛子、北海道大学出版会、「アラブ諸国のパスポート」陳天璽・大西広之・小森宏美・佐々木てる編、『パスポート学』、2016年、47-51頁。

錦田愛子、北海道大学出版会、「移民／難民とパスポート」陳天璽・大西広之・小森宏美・佐々木てる編、『パスポート学』、2016年、215-218頁。

清水謙、法律文化社、「スウェーデン - 移民／難民をめぐる政治外交史」岡部みどり編、『人の国際的移動とEU 地域統合は国境をどのように変えるのか？』、2016年、118-131

頁。

溝淵正季、ミネルヴァ書房、「冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容：アメリカの対中東政策を中心に」松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編、『中東の新たな秩序』、17-40頁、2016年。

錦田愛子、悠書館、「紛争とともに住むこと イスラエルとパレスチナの境界」堀内正樹編、『<断>と<続>の中東 非境界の世界を遊ぶ』、2015年、217-247頁。

錦田愛子、岩波書店、「パレスチナ ハマース否定が導いた政治的混乱」青山弘之編、『「アラブの心臓」に何が起きているのか 現代中東の実像』、2014年、147-175頁。

錦田愛子、新水社、「パレスチナ女性の語りに見る抵抗運動 ナショナリズム運動との関わり」福原裕二・吉村慎太郎編、『現代アジアの女性たち グローバル化社会を生きる』、2014年、57-74頁。

高岡豊、岩波書店、「シリア-「真の戦争状態」が必要とする「独裁」政権」青山弘之編、『「アラブの心臓」に何が起きているのか』、2014年、29-54頁。

高岡豊、岩波書店、「「イスラーム国」とシリア紛争」吉岡明子・山尾大編、『「イスラーム国」の脅威とイラク』、2014年、177-202頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

錦田 愛子 (NISHIKIDA, Aiko)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：70451979

(2) 研究分担者

濱中 新吾 (HAMANAKA, Shingo)
龍谷大学・法学部・教授
研究者番号：40344783

高岡 豊 (TAKAOKA, Yutaka)
東京外国語大学・外国語学部・研究員
研究者番号：10638711

溝淵 正季 (MIZOBUCHI, Masaki)
名古屋商科大学・経済学部・専任講師
研究者番号：00734865

(4) 研究協力者

清水 謙 (SHIMIZU, Ken)
東京大学大学院・博士後期課程
研究者番号：なし